

2027年度入学者 選抜試験日程

修士課程

	第1回試験	第2回試験
出願期限	2026年10月9日(金)	2027年1月15日(金)
第1次審査結果発表	2026年11月5日(木)	2027年2月3日(水)
第2次審査(オンライン面接)	2026年11月12日(木)または11月13日(金)	2027年2月9日(火)または2月10日(水)
第2次審査結果発表	2026年11月25日(水)	2027年2月25日(木)
入学時期	2027年4月	2027年4月

博士課程

	第1回試験	第2回試験
出願期限	2026年11月27日(金)	2027年5月7日(金)
第1次審査結果発表	2027年1月8日(金)	2027年6月14日(月)
第2次審査(オンライン面接)	2027年2月4日(木)または2月5日(金)	2027年7月1日(木)または7月2日(金)
第2次審査結果発表	2027年2月25日(木)	2027年7月28日(水)
入学時期	2027年4月または10月	2027年10月

※詳細については各募集要項をご確認ください。

募集要項は本学ウェブサイト <https://www.grips.ac.jp/admissions/guidelines/> に掲載されます。



学費等

● 検定料: 30,000円 ● 入学科: 282,000円 ● 授業料(年間): 642,960円(2022年4月入学以降)



Photo: Masao Nishikawa

入試に関する問い合わせ

政策研究大学院大学 アドミッションズオフィス

〒106-8677 東京都港区六本木7-22-1

E-mail: admissions@grips.ac.jp

プログラムに関する問い合わせ

政策研究大学院大学 科学技術イノベーション政策プログラム

〒106-8677 東京都港区六本木7-22-1

TEL: 03-6439-6043

E-mail: gist-ml@grips.ac.jp



<https://gist.grips.ac.jp/>

2027

科学技術

イノベーション政策

プログラム

GiST GRIPS Innovation, Science
and Technology Policy Program

GRIPS 政策研究大学院大学
NATIONAL GRADUATE INSTITUTE
FOR POLICY STUDIES

政策研究大学院大学
科学技術イノベーション政策プログラム

Photo: Masao Nishikawa

Science, Technology and Innovation

広がる知の地平、変貌する社会。 科学技術イノベーションの未来を、 ともにデザインする



科学技術イノベーション政策プログラムディレクター
隅蔵 康一

学術研究活動は、新たな知を創出するとともに、新しい製品やサービスといったイノベーションを生み出し、現代社会の重要な基盤の一つとなっています。科学技術イノベーション政策は、学術研究の担い手である大学・公的研究機関、イノベーションの担い手である民間企業、ならびにそれらを橋渡しする機関のいずれをも包含し、国の多くの省庁や地方自治体などの多様な組織が関与して立案・実施されています。

科学技術イノベーション政策の研究においては、研究費の効果的な配分方法、研究チームの構成と研究成果の関係、研究力の国際比較とそのため評価・測定指標、研究開発・イノベーションに関する人材問題（研究者、研究開発マネジメント人材、研究支援者それぞれの確保・育成）、研究開発税制、特許制度、産学連携、スタートアップ・エコシステムの形成、研究機器の効率的な設置と維持・活用、研究者の研究時間の確保、研究開発における倫理的課題、先端技術開発と国家安全保障、人工知能(AI)・量子コンピュータ・バイオテクノロジーなど個別分野の課題など、ここにすべて網羅できるものではありませんが、まだ全貌が解明されていない重要なテーマを数多く見出すことができるでしょう。

本プログラムは、科学技術イノベーション政策に焦点をおいて修士号と博士号の授与を行う教育課程です。本プログラムを通じて、科学的アプローチを用いた科学技術イノベーションの政策や戦略について、企画・立案・実行、評価、修正の実務をおこなうことができる高度専門職業人や、高度な研究能力を有する研究者の育成を行っています。

さらに、2020年度からは、授業科目を夜間や土曜日にも開講し、働きながら就学できるように改編を行いました。また、履修証明プログラムである「科学技術イノベーション政策・経営人材養成短期プログラム」を新設しました。これにより、多くの人に就学の機会を提供しています。

政策研究大学院大学は、ミッドキャリアの政治家・行政官・企業人を政策や戦略のプロフェッショナル、将来の指導者として養成することを目的として、世界的にネットワークを拡大しています。本プログラムの日本人学生も国内にいながら、そうしたキャリアの留学生とのつながりを得ることも可能です。

科学技術イノベーション政策に対する高い問題意識を持つ人材が集結し、本プログラムで得られる知見がキャリア形成と政策実践に活かされることを強く期待しています。

INDEX

- P03 育成する人材像／本プログラムで修得が期待できる能力
- P04 教員紹介
- P05 修士課程
- P07 博士課程
- P09 研修・セミナー等
- P10 教育環境
- P11 入試情報／問い合わせ



What We Look For 育成する人材像

- ▶ 国の科学技術イノベーション政策に携わる中央省庁の行政官
- ▶ 研究開発の実施や資金配分を担う組織で企画立案や評価などのマネジメントに携わる職員
- ▶ 地域において科学技術イノベーション関連の政策に携わる地方自治体職員
- ▶ 大学で研究開発のマネジメントに携わる教職員やリサーチ・アドミニストレーター(URA)
- ▶ 企業や非営利組織において研究管理やイノベーション創出に携わる担当者
- ▶ 大学や公的研究所等において科学技術イノベーション政策に関する研究ならびに教育を行うことを目指す方
- ▶ その他、科学技術イノベーション政策に関心があり、実務や研究に携わることを目指す方

ACHIEVEMENT

本プログラムで修得が期待できる能力

科学技術イノベーションとその政策に関する学術的知識を有し、それらを政策課題に対して応用することができる能力

公共政策に係る知識を持ち、それらの文脈の中で科学技術イノベーション政策をとらえ、分析ができる能力

科学技術イノベーション政策の課題を対象に、科学的アプローチに基づき、問題を設定し、仮説を構築し、定量的・定性的データ等を活用して分析を行い、それらを政策提言としてまとめ、政策形成者に対して示しコミュニケーションできる能力

科学技術イノベーション政策の形成や実施の実務に関する理解を有し、理論と実務を架橋した実践的な政策提言ができる能力

グローバル社会において異なる価値観や制度を尊重し、その中で科学技術イノベーション政策を理解してコミュニケーションする姿勢を持ち、リーダーおよびフォロワーとしての役割を自覚して活躍できる能力

FACULTY PROFILES 教員紹介



隅藏 康一

教授、プログラムディレクター

専門分野

知的財産政策、科学技術イノベーション政策



飯塚 倫子

副学長、教授、副ディレクター

専門分野

途上国における科学技術イノベーション政策



林 隆之

教授

専門分野

科学技術政策、科学計量学、高等教育政策、評価



インタラクムナード・パタラポン

教授

専門分野

途上国におけるイノベーション政策・イノベーションシステム



廣瀬 文乃

教授

専門分野

知識創造、イノベーション、経営戦略、リーダーシップ



衛藤 将史

教授

専門分野

ネットワーク技術、サイバーセキュリティ技術、セキュリティ演習、セキュリティ人材育成、情報通信政策、科学技術イノベーション政策



宮本 大輔

教授

専門分野

サイバーセキュリティ



ブラマー・マシュー

准教授

専門分野

国家安全保障、科学技術イノベーション政策



角南 篤

学長特命補佐、客員教授
(公益財団法人世川平和財団 理事長)

専門分野

科学・産業技術政策論、公共政策論、科学技術と外交



有本 建男

客員教授
(科学技術振興機構 参与、ISCフェロー (International Science Council))

専門分野

科学技術政策、科学的助言、科学と社会の関係、研究ファンディング制度



上山 隆大

客員教授
(内閣府 本府参与)

専門分野

科学技術政策、科学技術史、公共政策、イノベーション政策、高等教育論



根井 寿規

客員教授、名誉教授
(日本地下石油備蓄株式会社 代表取締役社長)

専門分野

エネルギー政策、原子力安全政策、地域産業政策



廣木 謙三

客員教授、名誉教授

専門分野

水防災、国際協力



鈴木 潤

客員教授、名誉教授

専門分野

科学技術政策、イノベーション経営

伊地知 寛博 【外部講師】
成城大学社会イノベーション学部 教授

久谷 一朗 【外部講師】
日本エネルギー経済研究所 理事

長根 裕美 【非常勤講師】
千葉大学大学院社会科学研究院 教授

柴田 善朗 【外部講師】
日本エネルギー経済研究所 研究理事

牧 兼充 【外部講師】
早稲田大学大学院経営管理研究科 准教授

江藤 諒 【外部講師】
日本エネルギー経済研究所 主任研究員

坂本 敏幸 【客員教授】
日本エネルギー経済研究所 常務理事

その他、特別講師多数

修了要件

カリキュラムに掲げる授業科目から合計30単位以上を修得し、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に合格し、かつ、最終試験に合格すること。

修士論文指導(必修科目)	コースワーク(選択必修・選択科目)	合計30単位以上
3単位	27単位以上	
標準修了年限	2年	
学位	修士(公共政策)	

スケジュール

コースワークを通じて、問題分析と政策・戦略の企画に必要な知識や方法論を身につけながら、自ら選んだ課題について修士論文等をまとめられるように構成されています。

履修モデルスケジュール

		1年目				2年目			
		春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
コースワーク (選択必修・ 選択科目)	27単位 以上	8単位	2単位	8単位		8単位	1単位		
修士論文指導 (必修科目)	3単位			科学技術 イノベーション政策 論文演習Ⅰ		科学技術 イノベーション政策 論文演習Ⅱ		科学技術 イノベーション政策 論文演習Ⅲ	

基礎的科目

科学技術イノベーション政策概論／イノベーション創出のエコシステム／科学技術イノベーション政策立案演習／戦略マネジメントとイノベーション、他

応用科目

科学技術イノベーション政策史／科学技術外交論／科学技術イノベーション政策と評価／ピブリオメトリクスとその応用／科学技術とアントレプレナーシップ／特許・知財制度と知財マネジメント／デジタルトランスフォーメーション政策、他

本プログラムでは、科学的なアプローチを用い、科学技術イノベーション政策や戦略の企画、立案、遂行、評価、修正を行うことができる職業人および将来研究者を目指す方を育成します。

このような人材に求められる政策研究能力と政策や戦略の企画・実践力を育成するため、必要となる複数のディシプリンとともに、社会科学諸分野における分析能力、外国語能力が獲得できるようカリキュラムを編成しています。

授業は夜間と土曜にも開講しており、これらの科目だけでも修了に必要な単位が取得できるため、仕事を継続しながら修学することも可能です。

過去の論文テーマ例

年度	テーマ
2025	● 中国の特色あるナショナル・ディフェンス・イノベーション・システム ーデュアルユース時代における国防装備開発モデルー ● エルサルバドルにおける公共拠点CUBOの実証的検討 ー治安上の制約下で社会包摂を支える空間の役割とイノベーションー
2024	● 博士人材を取り巻く環境分析 ー 民間企業の研究開発活動と国内研究力の俯瞰 ー ● Altmetrics指標としてのINDIRECT X mentionsの提案 ー ウェブニュースおよびブログを介したX上での論文拡散 ー
2023	● デジタル技術が社会課題解決への「参画」を促進するには ー 実践者へのインタビュー調査 ー ● 国立大学の統合が及ぼす影響 ー 医学系大学と総合大学の統合についてのDID分析 ー

修了生の声



小林 清一さん
長野市役所
2023年3月 / 修士課程修了

イノベーションを起こす地域づくりを目指して

修士課程まで環境工学を学んだ後、長野市役所にて、環境政策、交通政策、高齢者施策などの業務に従事。行政職員としての総合能力を更に高め、公共政策のプロとして、長野を世界に自慢できる街にしていける人材になりたいと考え、短期履修プログラムを経て、修士課程に入学。休日・夜間の講義のため、仕事を休職することなく、公共政策の専門性を高め、長野地域のイノベーション創出につながる探求ができることに魅力を感じました。修士論文では、国の大型研究開発プログラムの効果やイノベーションが起こりやすい地域の特徴、組織間の関係性、地方自治体の体制、住民との距離感などを多面的に分析し、イノベーションを起こす地域づくりを進める上での政策提言を行いました。



笠井 英和さん
総務省
2021年3月 / 修士課程修了

地域でデジタルトランスフォーメーションを加速するために

民間企業で情報システムの開発・運用業務に従事後、総務省に入省。日々の実務において、変化する技術や環境を踏まえた政策立案の必要性を感じ、「STI政策」を体系的に学べるGRIPSを志望しました。STIプログラムの魅力は、充実したカリキュラムです。歴史や政策の評価方法、産学連携政策など、幅広く講義を受講できます。また、教員の多くが、政府の審議会に係わっているため、政策の裏に踏み込んだ話を聞くこともできます。更に、同業の公務員だけでなく、研究機関や民間企業で働く社会人、留学生とも議論ができ、多角的な視点で思考する重要性にも改めて気づくことができました。修士論文では、DXを加速させるために必要なICT政策の在り方について、事例を通して検証しました。



崎村 奏子さん
株式会社国際社会経済研究所
2024年3月 / 修士課程修了

テクノロジーのより良い社会実装を目指して

科学技術・イノベーション政策を体系的に学ぶことで、テクノロジーのより良い社会実装のためのヒントが得たいと思い入学しました。修士論文では「デジタル技術による社会課題解決への参画」をテーマに取り組み、現在は博士課程に進学し研究を続けています。本プログラムの魅力は、日々の実務での違和感が理論とつながる実感を得られる点や、官民間問わず多様な環境で活躍する学生の皆さんと学び合える貴重な環境にあります。仕事と研究の両立は挑戦の連続ですが、ここで得た新たな視座やネットワークは日々の実務にも活かしています。理論と実践を往復しながら、今後ともさらなる探求を続けていきたいです。

本学では、1年制修士課程「公共政策プログラム科学技術イノベーション政策コース」も併せて設けています。平日昼間にフルタイム修学することで、1年間で修士(公共政策)の学位を取得できます。コース指定5科目は、科学技術イノベーション政策プログラムとの共通科目のため、夜間および土曜日に実施します。詳細は政策研究大学院大学のウェブサイトをご参照ください。

https://www.grips.ac.jp/jp/education/dom_programs/public/innovation/



修了要件

カリキュラムに掲げる授業科目から14単位（必修4単位含む）以上を取得し、博士論文提出資格試験（Qualifying Examination）に合格の上、博士論文の最終審査に合格すること。

博士論文指導（必修科目）	コースワーク（選択必修・選択科目）	合計14単位以上
4単位	10単位以上	

※ 2021年度より、修了要件の単位数を20単位→14単位に変更しましたが、科学技術イノベーション政策に関する学修歴がない場合（GRIPSの科学技術イノベーション政策プログラム修士課程を修了するなど）には、修了要件14単位を超えて、これまで同様に20単位程度の取得をプログラムとして推奨します。

標準修了年限	3年
--------	----

学位	博士（公共政策）, Ph.D. in Public Policy
----	----------------------------------

スケジュール

1年目のコースワークでは科学技術イノベーション政策分野を中心に学術的な理論や分析手法を身につけ、ディスカッションやグループワークを通じて政策立案の実践的能力を育成します。2年目以降に博士論文のための研究と発表を通じて研究力を養います。

履修モデルスケジュール

1年目				2年目				3年目			
春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
コースワーク （選択必修・選択科目10単位以上）											
Research Seminar I 1単位	Research Seminar II 1単位	Research Seminar III 1単位	Research Seminar IV 1単位	Research Seminar V 1単位	Research Seminar VI 1単位	博士論文提出資格試験 （10単位以上履修後に受験可能）				博士論文 最終審査	

基礎的科目

科学技術イノベーション政策概論／イノベーション創出のエコシステム／科学技術イノベーション政策立案演習／サイバーセキュリティ／AI政策実践論／戦略マネジメントとイノベーション／Politics of Innovation、他

応用科目

オープンイノベーションと産学連携／科学技術イノベーション政策と評価／ビブリオメトリクスとその応用／科学技術とアントレプレナーシップ／特許・知財制度と知財マネジメント／デジタルトランスフォーメーション政策／Science, Technology and Innovation Policy in Developing Country Context、他

本プログラムでは、科学的なアプローチを用い、科学技術イノベーション政策や戦略の企画、立案、遂行、評価、修正を行うことができる高度専門職業人および高度な研究能力を有する研究者を育成します。

このような人材に求められる高度な政策研究能力と政策や戦略の企画・実践力を育成するため、必要となる複数のディシプリンとともに、社会科学諸分野における分析能力、高等教育での教授能力、高度な外国語能力が獲得できるようカリキュラムを編成しています。授業は夜間と土曜にも開講しており、仕事を継続しながら修学することも可能です。

過去の論文テーマ例

年度	テーマ
2025	● 大学発スタートアップとそれを取り巻くエコシステムの技術分野別分析：国際比較における日本の特徴
2024	● Techno-Economic Analysis of Hydrogen and Ammonia Production in Isolated Microgrids for Sustainable Development ● Science, Technology, Innovation in the Gulf：Security, Institutions, and Agents of Change in the GCC ● Open Science and the Transformation of Research Practice：The Impact of Open Research Data on Emerging Modes of Scientific Discovery
2023	● Towards a Decarbonized and Sustainable Energy System: Multi-Criteria Decision-Making Applications for Evaluation of Energy Efficiency Projects and Hydrogen Production Technologies
2022	● Fostering Further Participation in Agri-Food Business Global Value Chains: A Multiple Case-Study on Intermediary Roles and Capabilities in the Philippine Rice and Mango Industries ● Essays on Evaluation of Global Health Policy on Tuberculosis Control

修了生の声



ケヴィン・クリストファーゴさん
Ateneo de Manila University
2022年6月 / 博士課程修了

母国フィリピンでSTI政策の推進を目指して

発展途上国では、時に開発や産業等の政策が優先され、STI政策は後回しになるという現実があるものの、多くの人がSTI政策は、経済、環境、貧困、SDGsに与えるインパクトは非常に大きいと認識しています。GRIPSで学んだことを活かして、フィリピンにおけるSTI推進者や実践者のコミュニティの成長をサポートしていくつもりです。学んだことを単に社会に適用するだけでは、STI文化は醸成されませんので、STIの持つ素晴らしさを若い人たちに知ってもらう必要があると思っています。Ateneo de Manila大学に戻って、開発研究プログラムの教員として教鞭をとり、学生を指導していきます。更に、母国の発展に貢献できるように、関係省庁や関係セクターへ博士論文を通じて学んだことを共有し続けていきます。



嶋田 義皓さん
ソフトバンク株式会社 先端技術研究所
2018年6月 / 博士課程修了

実務から生まれる問題意識を政策研究として探求

科学館やファンディング機関で仕事をしてきたことから、科学と社会の関係に関心があり、国内留学制度を活用し進学を決めました。他大学と比較しましたが、GRIPSのSTIプログラムは、開発経済学、公共政策、外交など幅広い分野から構成されていたのが魅力でした。論文や学術機関について、今どういうデータが利用可能で誰がどのような分析をしているのかといった土地勘を得られたのは、現在の業務でも役立っています。在学中は、科学研究の多様性に着目。ファンディングプログラムの性格や規模が、研究の多様性にどのような影響を与えているのか分析し論文にまとめました。



沼尻 保奈美さん
京都大学附属図書館研究開発室
2025年3月 / 博士課程修了

実務から生まれた「問い」を、科学技術政策研究へ

国立研究開発法人で研究支援に携わる中で、「研究成果や研究データをどのように社会へ還元し、その価値を適切に評価すべきか」という問題意識を持ち、GRIPSのSTIプログラム修士課程へ進学しました。GRIPSでは、科学計量学や政策分析を基盤に、オープンサイエンスや研究データ管理、研究評価を政策の視点から探究しました。修士修了後、この問いをさらに深めたいという思いから、職を辞して博士課程に進学しました。在学中には、JSPSの海外派遣制度の支援を受けてオランダ・ライデン大学で共同研究に取り組み、研究を国際的な視点から発展させる転機となりました。現在は京都大学附属図書館研究開発室で助教を務め、オープンサイエンスや研究ライフサイクル全体に関わるテーマに取り組んでいます。GRIPSにおいて多様な専門分野・実務経験を持つ教員・学生との議論を通じて養った、一つの課題を多角的に捉える視点は、今も研究を支える財産です。

TRAINING, SEMINARS 研修・セミナー等

本プログラムでは、修士課程、博士課程の授業の他にも、短期プログラム、サマーキャンプ、セミナーなどを通じて、国内外の有識者から幅広く学べる環境を提供しています。

科学技術イノベーション政策・経営人材養成 短期プログラム

科学技術イノベーション政策や研究開発戦略の分析、企画・立案、運営、評価に必要な知識と方法の基礎を学修できる社会人向けの履修証明プログラムを提供しています。本学修士・博士課程の正規授業科目であり、科目等履修生制度を活用することで、単位認定をします。正規課程に進学した場合には、単位の移行が可能です。

履修可能な科目(6単位)

科学技術イノベーション政策概論 / イノベーション創出のエコシステム / 科学技術イノベーション政策立案演習

開講スケジュール(2026年度の場合)

春学期後期 ※6月27日(土)、7月18日(土)は5限(16:40-18:10)も講義を実施。

2026年 6月6日～7月18日 土曜日	1限 (9:00-10:30)	2限 (10:40-12:20)	3限 (13:20-14:50)	4限 (15:00-16:30)	5限 (16:40-18:10)
	イノベーション創出のエコシステム		科学技術イノベーション政策概論		——

夏学期

2026年 8月1日、2日、8日の 3日間集中講義	1限 (9:00-10:30)	2限 (10:40-12:20)	3限 (13:20-14:50)	4限 (15:00-16:30)	5限 (16:40-18:10)
	科学技術イノベーション政策立案演習				

受講料等

● 検定料:9,800円 ● 受講料:114,600円

募集期間

例年12月～1月にかけて翌年度の受講生を募集しています。

GiST セミナー

国内外から有識者をお招きし、科学技術イノベーション政策における最先端の研究動向、実務動向について講演いただきます。



LEARNING ENVIRONMENTS 教育環境

政策研究大学院大学では、教務事務を担当する職員に加えコーディネーター(教育プログラムの運営・管理を担当する事務職員)を配置し、学生それぞれの都合に合わせたきめ細やかなサポートを行っています。



Photo: Masao Nishikawa

国際色豊かな環境

日本を含む60近くの国と地域から学生が集まっています。また、全学生の60%が留学生という極めて国際的な環境です。留学生の多くは各国の公的機関から派遣されており、自国の政策形成・立案に携わる人材です。他大学にはないGRIPSの特徴的なネットワークです。



図書館

図書館では、政治学、経済学関係の専門書をはじめ、政策研究に必要な和・洋の専門書、逐次刊行物(雑誌、年鑑、統計等)等、広く政策研究に関する文献を利用できます。蔵書数は20万冊を超え、電子ジャーナルを含め17,000を超えるタイトルの雑誌を閲覧可能です。



学術機関リポジトリ

学位論文、ディスカッション・ペーパーを中心に本学の教育研究活動の成果を発信しています。

プロフェッショナル・コミュニケーションセンター

本学で学ぶ学生および教職員は、さまざまな交渉相手と生産的なコミュニケーションを行うことが求められます。そのような場面に必要不可欠となるプロフェッショナルとしてのコミュニケーション・スキルと日本語・英語の言語運用力育成のためにプロフェッショナル・コミュニケーション・センターを設けています。

院生研究室

日本人学生と留学生が共同で利用する院生研究室が整備されており、個人用のブースが用意されています。また、学生の文化や宗教などの多様化への対応として祈りを捧げるスペースを用意しています。